



波紋

認定特定非営利活動法人
 教育活動総合サポートセンターだより
 「波紋」 第17号
 発行人 前田 博明
 題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
 〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
 TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980
 E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.kks-support.sakura.ne.jp/
 印刷 西桜印刷株式会社
 TEL: 03-3568-2543

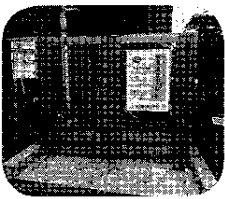
「チームとしての意識」のもと 一人ひとり更なる前進を

●謙虚・懸念・感謝の心を忘れずに
 ●安心して「報告・連絡・相談」ができる環境づくりを
 ●研究の成果を生かして実践の充実を
 本年度もどうぞよろしくお願いいたします
 認定NPO法人 教育活動総合サポートセンター
 理事長 前田 博明

サポートセンター設立から16年目、二〇一九年度（令和元年度）がスタートしました。3月16日の理事会、ならびに総会におきまして、牧田好史前理事長の後任として理事長に選任されました前田博明と申します。皆様のご支援やご協力をいただきながら、微力ではございますが精一杯努めてまいりたいと思っております。

サポートセンター設立時の趣旨にあるように、私たちは、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願って、日々努力を重ねてきました。現在委託事業・補助金事業・自主事業合わせて27の事業に取り組んでいますが、これもひとえに先輩諸氏のご努力があつてこそと、改めて強く感じております。

2月23日（土）に研究報告会を開催しました。「合理的配慮」に関わる研究は3年目を迎えたので、その総括の年でもありました。「不登校、いじめ等への対応」という昨年度と同じテーマのもと、



今回は「合理的配慮に基づく多様な学びをめざして」という視点で、日々の実践事例研究の成果を報告させていただきました。

今年度は「合理的配慮」を注ぎ、全てに「感謝」することを目指し、今年度も所員一丸となつて、「謙虚・懸念・感謝」の心を忘れず取り組んでまいります。



事業計画

本年度も「子どもたちに力を」の法人設立の理念に基づき、定款に定められた9つの分野の事業が一層充実するよう努力して参ります。

- ①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
 - ア 教育・福祉相談事業
 - イ 支援を必要とする子の保護者の会事業
 - ウ 県立青少年センター「フリースペース等事業費補助金」に

係る補助事業

- ②適応指導に関する事業
 - ア ことも包括支援事業
 - イ 地域における子ども支援と拠点づくり事業
 - ウ こともサポート旭町

- ③学習支援に関する事業
 - ア 学習支援事業
 - イ 幸区地域課題対応事業
 - ウ 川崎市学習支援・居場所づくり事業川崎区
 - エ 川崎市学習支援・居場所づくり事業（学習支援 川崎教室）
 - オ 夏休み特別講座
 - カ 科学教育の普及・啓発助成事業
 - キ 地域の寺子屋事業
 - ク 地域の寺子屋事業
 - ケ 地域の寺子屋事業
 - コ 地域の寺子屋事業
 - サ 地域の寺子屋事業

- ④特別支援教育に関する事業
 - ア 中原区子ども発達支援事業
 - イ 中原区保護者ミーティング

- ⑤体験活動等に関する事業
 - ア ふれあい体験活動
 - イ 適応指導教室あさお体験広場に係る管理業務事業
 - ウ 川のびファーム

- ⑥研修等に関する事業
 - ア 自主研究
 - イ 川崎市教育会館運営管理業務

- ⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
 - ア 臨時的任用教員研修等指導員配置事業
 - イ 教育活動サポーター配置事業
 - ウ 特別支援教育サポーター事業
 - エ 営繕業務委託

- ⑧講演会等の企画運営に関する事業
 - ア 文化講演会事業

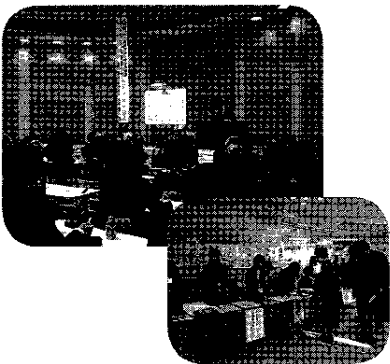
- ⑨文化・スポーツ活動推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館共同運営事業

- ⑩文化・スポーツ活動推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館共同運営事業

- ⑪文化・スポーツ活動推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館共同運営事業

- ⑫文化・スポーツ活動推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館共同運営事業

- ⑬文化・スポーツ活動推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館共同運営事業



大山街道ふるさと館

新年度は二〇一九年度から始まるふるさと館指定管理の初年度にあたります。今期の指定管理が実りあるものになるように職員一同全力を注ぐ所存です。

今年度は4回の企画展・2回の記念講演会、3回のふるさと探究講座、春・秋・冬の館まつり等事業の充実をはかるとともに、常設展示の拡充、地域活性化事業の推進、広報活動の進化等をさらに進めていきます。

小中学生に向けても、子ども探検クラブ、出前授業・職場体験等、地域学習の支援も強化していきます。

(東原)

教育会館・教育相談

教育会館は教育関係者の会議場として、多くの方に利用されています。しかし老朽化にともなう、補修工事も必須で、皆様には不便と、防水工事では騒音でご迷惑をおかけしましたが、工事も終わり快適な環境を整えることができました。

そして今年度からは新しい業務として職員向けの研修会の実施が加わりました。今後検討をすすめていきたいと考えています。

2階ロビーの壁面を活用した教職員作品展も随時入れ替えを行います。多忙な会議の合間にホットするひと時を味わっていただければ幸いです。(坪田)

臨時的任用教員研修等指導員配置

30年度より教職員の資質向上の一環として臨時的任用教員(臨任者)に対して研修を行うようになりました。初めて採用された臨任者と中学校での一人配置の初任者(正規職員)を基本とし、また学校長からの要望により、経験のある臨任者や非常勤講師に対しても本研修が適用され、幅広い研修になっています。

指導者が学校へ伺い、授業を見た後、様々な視点から研修者に対して指導・助言を行っています。

研修の機会が少ない臨任者にとって非常に有効な研修となっています。(入山)

教育サポーター配置事業

川崎市教育委員会と連携した事業として、市内小・中・高等学校の指導補助者として大学生を中心に教員経験者、地域の協力者等をサポーターとして配置しています。現在、小学校各校に3〜6人、中・高校に1〜3人、市内小・中学校10校、高校4校に配置された約100人の方がサポーターとして活動しています。

それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。各校からはサポーターへの感謝とこれからの活動に大きな期待をいただいています。(相川)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさおに隣接する体験農園「のびのびファーム」を活用する、総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの植え付け・種まきと収穫などを体験、食育教育の一環として年間を通して学んでいます。野菜の生育は天候に左右されますが、昨年は晴天続きで、どの野菜も大豊作でした。日常的に作物の世話や農場の管理をしてくださっているボランティアの方々に感謝しています。(山田)

平成30年度自主研究

実践事例の検討では、合理的配慮をより具体的な形で検証し、その基盤をなすものを明らかにすることができました。

また、3年間の研究により、合理的配慮が浸透してきていることが数字の上からも確かめることができました。

実践事例の検討です。

アンケートからは、学習支援者が様々な合理的配慮を行っていることがわかりました。

「合理的配慮に基づく多様な学びをめざして」

不登校・いじめ等への対応

合理的配慮に基づく多様な学びをめざして

合理的配慮に焦点をあてた研究も3年目を迎え、今年度が1つの区切りとなるものにならんと考えて取り組みました。

研究の柱は、こどもサポートスタッフへのアンケートと研究部員が持ち寄った実践事例の検討です。

アンケートからは、学習支援者が様々な合理的配慮を行っていることがわかりました。

「合理的配慮に基づく多様な学びをめざして」

この3年間取り組んできたことの報告を行いました。

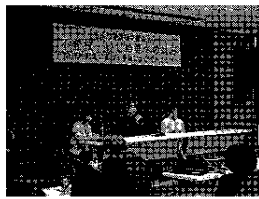
最初に、研究部長から、研究の概要・テ

研究報告会から

(齋藤)

「合理的配慮に基づく多様な学び」について、この3年間取り組んできたことの報告を行いました。

最初に、研究部長から、研究の概要・テ



「合理的配慮に基づく多様な学び」について、この3年間取り組んできたことの報告を行いました。

最初に、研究部長から、研究の概要・テ



電話受付 月〜金曜日

教育相談案内 044-877-0553

9時〜17時

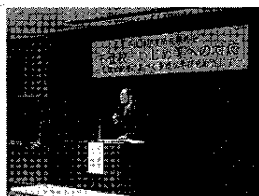
◆「支援を必要とする子の保護者の会」は年3回(7・10・1月)実施している保護者の会で、不登校やいじめなどの子どもを取り巻く諸問題で悩む保護者同士で、様々な情報交換や解決に向けての助言や支援を行っています。また、支援を必要とする子どもたちへの各種相談機関の紹介や利用者の生の声も聴くことが出来ます。実施日はホームページをご覧ください。(略)

「合理的配慮に基づく多様な学び」について、この3年間取り組んできたことの報告を行いました。

最初に、研究部長から、研究の概要・テ

「合理的配慮に基づく多様な学び」について、この3年間取り組んできたことの報告を行いました。

最初に、研究部長から、研究の概要・テ



わかる喜び 学が楽しさ 元気いっぱいの子どもたち

苦手が得意に

学校に行けなくなり不安な気持ちが大きくなり、サポートセンターに通うようになりました。勉強はいやだったけど、パソコンを使った勉強などをやり、楽しく通うことができました。先生たちがとても優しく、少しづつ自信がもてるようになりました。

苦手と書いていた算数が得意だとわかってとてもうれ



こどもサポート宮ノ下

平成30年度、約120件の相談・登録がありました。子どもと支援者が一対一での学習形態を基本に、子どもに寄り添いながら子どもがもつ力を十分引き出すように様々な学習の工夫や支援の取り組みを続けています。その中で子どもたちの力や良さが発揮されると、支援する私たちも励まされます。また子どもによさや課題を学習担当・相談担当で共有するよう努めています。

約四十人の小中学生が四月から新しい進路を歩み始めました。自分らしく進む姿をこれからも応援していきます (保崎)

しかつたです。これからもサポートセンターに通い、苦手な科目がなくなるようがんばりたいです。学校にもまた行けるようになりました。

(小5 Y・K)

サポートセンター

私は昨年の10月からサポートセンターに通い2教科を勉強しています。以前の私と比べて変わったところは、勉強が楽しいと思えるようになったことです。国語の学習では、物の数え方を学びました。例えばタンスは「棹(さお)」と数えることを知り、面白いなあと思えました。算数の学習では、学習の合間に息抜きに折り紙を教え

てもらい、楽しかったです。毎週通うのが楽しみでした。4月から中学生になります。サポートセンターでの思い出を励みにして頑張ります。

(小6 K・M)

大きな一歩

僕は、このサポートセンターに約2年間通いました。当時は正直学校の勉強についていけませんでしたが、ところがここに入って、わからないことを先生と一緒に一つ一つなくすことができ、苦手だった勉強がすこしづつ、好きになりました。そのおかげで無事に志望高校に合格できました。僕は高校に入って陸上部に入るつもりです。高校で誰よりも努力して、大学で箱根駅伝に出ることが先生への恩返しだと思っていますので、これからは文武両道でいきたいです。

(中3 A・K)

たとえ、つまずい てしまっても...

「学校へ行たくない」と泣きながら訴えてきた。当時小学校三年生の息子が、7年後「陸上部がある高校へ行きたい」と将来の目標を持つまでになりました。不登校と向き合ってきた今、親にできることは、子ども主体で考え、認めてあげること。おのずと自分が受け入れられた感覚と実際にできた達成感の積み重ねが自信となり、次のステップへと進むことができています。そして、当時の息子と私に、「焦らないで、安心できる居場所を広げて

ほしい」と伝えたいです。息子の場合、サポートセンターでの学習や陸上部での活動により、たくさんの出会いがありました。そこで、恩師に支えていただきながら自信をつけさせていたたたきました。この春、息子は高校生活がスタートします。親として心配することや不安はありません。たとえつまずいてしまっても、また焦らずに悩めばいい。高校生活がゴールではないからです。

(保護者 A・Y)

勉強が好きに...

私は3年生になってから、高校受験のためにサポートセンターに通い始めました。中学校は2年間しか行けず、勉強も全くやってこなかったため、たった1年間で間に合うかとても不安でした。勉強を教えてもらっているうちに、嫌いだっただ数学が好きになり、勉強するのが楽しくなりました。他にも先生と色々な話をしたり、一緒に昼食をとったりと、サポートセンターに行くのが毎回とても楽しみになっていました。そして無事志望した高校に合格することができました。サポートセンターに通うことができて本当に良かったです。

(中3 H・K)



サポートセンターで教えたことが

私は、中1の夏休み明けから学校に行けなくなりました。中2になったときサポートセンターに通うようになり、国語と数学の学習を指導してもらうようになりました。学校に行かなくなっていたから、勉強はしないで昼夜逆転した生活を送っていました。中3になってからは、英語も教えてもらうようになり、受験の仕方についても詳しく指導してもらい、無事高校

キッズセミナー

「ワーすごい」でできた「子どもたちの元気な声」が飛びかうのが発展・体験学習、実験などを取り入れたキッズセミナーです。夏休み5日間で午前と午後、8講座が開催され、延べ854人の参加がありました。謎解きゲーム・溝の口探検・一筆書きの秘密・風車・万華鏡・葉脈標本作り・自然を生かしたオブジェ・英語の歌とフラダンスのユニット・パソコンでアレンジ作り・ポディーパーカッションや楽器での音楽会。子ども達は発見や感動で歓声を上げ、参観した保護者の方々の笑顔は私どもの指導活力となりました。(石田)

目標に向かって

小学校3年生の時、クラスでの出来事がきっかけで、不登校になりました。当時は外にも出ず、ゲームをしたり、マンガを読んだりして過ごしていました。この状況を母は見るに見かねて、夜一緒にウォーキングを始めました。その後走ることが好きになり、陸上競技の長距離で県大会にも出るようになりました。そして今私は高校でも陸上をやりたい。目標は5千メートルを14分台で走る事です。将来は箱根駅伝やマラソンにも挑戦したいと思います。

(中3 Y・Y)

学習支援・居場所づくり事業

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でしたが、今年度から新たに小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の

| 進学 | 全日制 | | 定時制 | | 通学所要時間 | 合計 |
|----|-----|----|-----|---|--------|----|
| | 公立 | 私立 | 8 | 0 | | |
| 進学 | 26 | 2 | 8 | 0 | 0 | 43 |

中学生も対象になりました。今年度は、川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員(教員OB)、学習支援サポーター(教員OBや市民、大学生等)が子どもたちの学習支援にあたっています。

平成30年度に通所した中学3年生43人の進路状況は次の通りです。



(東條)

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校・引きこもりの子どもたちの居場所として開設から10年が経ちました。自ら一歩踏み出す子ども達の姿を長い間見守り続けています。学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜を使った調理に張りきる子、ものづくりで力を発揮する子、トランプや卓球で人との関わりを学ぶ子、取り組むこともやり方も十人十色。自分が選んだ活動をゆとり積み上げて心の安心と自信を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、子ども達に寄り添って力を引き出してきています。(大和田)

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」は不登校や引きこもりの子どもが安心して過ごせる居場所として、平成22年に川崎区の委託を受けて開設しました。年々利用者が増え、30年度は延べ2千人の小・中・高校生が来所利用しました。

月・火・水・木の10時から16時まで、旭町こども文化センターの3階和室を中心に過ごしていますが、学年の枠を超えて賑やかに遊ぶ姿がよく見られます。学習、ゲーム、スポーツ、創作、クッキング等の他、講師による茶道、読み聞かせが毎月あります。(中野)

地域の寺子屋事業

平成26年、子どもたちが夢や希望を持つて前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートし6年目を迎えました。

①設置目的

- 子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- 地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることに、地域の教育力の向上を図ります。
- シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくります。

日本語支援 東小倉

日本語支援東小倉には、昨年度は17人の登録がありました。小学生が11人、中学生が6人で、中国・フィリピン・ネパール・インドにつながる子どもたちでした。外国につながる子どもでも、最近では日本で生まれ育ち、日本国籍を持っている子どもも増えていきます。生活言語ができることと安心してしゃべることができるが、学習言語は別だと認識し、国語や算数を中心とした教科学習も取り組んでいく必要があります。ここでは、学習だけでなく、その後の遊びや音読会・お楽しみ会などもあり安心して楽しく過ごせる居場所となっています。(堤)

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動は、今年度で14年目になります。

出前科学教室では、クラブ協力も含め延べ200人の参加がありました。また、キッズセミナーや冬のサイエンスキッズにおいて延べ37人の参加がありました。

題材として、偏光万華鏡やおかぶか方位計や葉脈標本等多彩なものがありました。

今年度も題材や活動内容をさらに工夫し、子どもたちが楽しく活動でき、自然の不思議さを見つけ調べたいと思える取組を進めてまいります。(鈴木博)

②活動内容

これらの目的を受け、サポートセンターでは、「西生田」「高津」「上作延」「富士見台」「鷺沼」の5カ所で実践しています。主な内容は2つです。

- 毎週1回の学習教室
- 月1回の体験活動

学習教室では宿題や学習プリントを中心に、お楽しみ学習のクイズやゲームにも取り組んでいます。体験活動では「もの作り」「料理」「スポーツ」など、その道の専門家を講師に招き様々な活動を展開しています。



(藤田秀)

編集後記

今年度のサポートセンターがスタートしました。新たに着任した前田博明理事長を先頭にして、川崎市の認定NPO法人としての責務を果たしていきたいと考えています。昨年来、私たちが取り巻く状況は厳しさを増し、再契約の際のプロポーザルの実施や一般競争入札の導入などの委託事業が増えています。受託した事業の新たな展開に努めると同時に、私たちの一層の経営努力も求められています。

今年度は委託事業19・補助金事業3・自主事業5を展開していますが、財政面では委託金のほかに、サポートセンターの活動を支援して下さる各種企業からの寄付金、学校関係者・PTA・保護者として所員からの賛助金に多くを依存しているのが実情です。さらなるサポートセンターへの物心両面からのご支援ご協力をお願いいたします。(東條)

子どもに力！

教育活動 総合サポートセンター

QRコードで すぐに接続

「川崎教育活動」で検索！